

# あかやま



第 **319** 号  
学校だより380号

## エンパワーメントプログラム

12月23日(金)~27日(火)の5日間に実施したエンパワーメントプログラムに34名(1年生28名、2年生6名)が参加しました。本プログラムは、本校起雲館を会場に、国際理解教育プログラムの一環として、グループリーダー役の大学生6名、進行役1名、計7名の日本の大学に通う外国人留学生を招いて行う、5日間英語漬けの研修です。また、今年も双松会の「世界の人たれ!北高生」基金より参加費の助成をいただいております。

プログラム初日(23日)、今年は午後からのスタートでした。参加者はグループリーダーたちとの初対面に緊張した面持ちでした。また、同じ北高生ではあるものの、初対面のグループメンバーに囲まれて英語で話していくことに戸惑いを感じている様子でした。

プログラム2日目(24日)は、午前中はPositive Thinkingについて考えました。自分や他人の良い面に気づかされ、初日より発言する声が少しずつ大きくなり、自信を持って英語を話している姿が見られ始めました。プログラム3日目(25日)は午前中、自分自身のことについてMy Identityというテーマで皆と考えました。午後のプロジェクトでは未来のテクノロジーと私たちの生活についてグループで意見をまとめ、グループごとに発表しました。この日の終わりには生徒たちの顔に少しずつ自信が見られるようになりました。

プログラム4日目(26日)は午前中、Leadershipについ

て考えました。午後は、明日に迫った最終日の最終プレゼンテーションに向けて構想を練る時間があり、生徒たちは熱心に取り組んでいました。

プログラム5日目(27日)、最終日でした。午前中、気候変動について具体的な対策について意見を交わした後、最終プレゼンに向けて準備を行いました。生徒たちのプレゼン準備に向かう姿勢から、緊張の中にも意気込みが感じられ、会場も熱気を帯びました。午後は最終プレゼンを行いました。一人一人がこの研修の成果の集大成と言える発表をしました。この5日間という短い間の研修の中で、それぞれの気づきがあったことを感じさせ、個々の成長が見て取れる素晴らしい内容でした。最終プレゼンを終え、プログラムが終わった生徒の顔は、安堵と笑顔が溢れ、生徒の顔に充実感が見て取れました。

この5日間を通じて、生徒は様々な文化について理解を深めると同時に、英語での発信力を大きく伸ばした様に感じます。間違いやどんな発言であっても承認するというプログラムの理念も素晴らしいと感じさせられました。

今年も双松会ホームページを通じて、エンパワーメントプログラム最終発表会をZOOMでリアルタイム配信し、日頃支援をいただいている双松会の方々実際に生徒が活動している姿をご覧いただく機会となりました。会員の皆様ありがとうございました。



12/23 (金)	オープニングセレモニー、Goal Setting Activity、アクティブに質問する、このプログラムで自分が成し遂げたいゴールについてシェアする
12/24 (土)	効果的な英語プレゼンテーションについて学ぶ、Positive Thinkingについて考える、Project 1 :地産地消プロジェクト
12/25 (日)	My Identityについて考える、SDGsについて考える、プレゼンをする、質問を受ける、Project 2 :テクノロジーと私たちの生活(スマートシティ)
12/26 (月)	Leadershipについて考える、自分の将来の目標について、学ぶことの意義(将来の目標達成のために)、プレゼンテーション原稿の作成
12/27 (火)	Project 3 :SDGs Goal 13:気候変動に具体的な対策を、プレゼンテーション準備、1人1人によるプレゼンテーション、クロージングセレモニー

## 理数科2年 サイエンス・カフェ in 松江

2022年12月17日(土)、NPO法人サイエンス・ステーションと松江北高校の主催で、「サイエンス・カフェ in 松江」を松江市市民活動センター(スティックビル)にて開催しました。本企画は、松江北高校理数科で行なわれている教育活動を地域に紹介するとともに、誰でも自由な雰囲気の中で気軽にサイエンスの話題を楽しんでもらえるように毎年開催しているものです。

本年度は新たに、午前の部「クリスマスの季節に、子ども達へのサイエンスの贈り物」として、小学生対象のサイエンスショー企画と科学教室「松江北高校キッズ☆サイエンスプログラム クリスマススペシャル」を行いました。

科学教室は、本校1・2年生が先生役となって小学生に科学の楽しさを伝える企画で本年度スタートしました。第3回となる今回は地学(天文)分野がテーマで天体望遠鏡のしくみを工作しながら学びました。小学生に伝えるための工夫や準備を重ねた先生役の生徒達からは「大変だったけど楽しく貴重な経験になった」「小学生がかわいかった」「またやってみたい」等の感想が聞かれました。

クリスマスサイエンスショーは、サイエンス・ステーションの皆さんによる企画で、どちらの企画も参加した小学生から好評で楽しんでもらえました。

午後の部は、これまで通りサイエンス・ステーションの講師による「サイエンストーク(講演)」及び理数科2年生による「課題研究中間発表」をいずれも一般公開で行いました。「課題研究中間発表」ではサイエンス・ステーションの学生の方や、見に来られた一般の方からの質問に丁寧に答えたり、アドバイスタイムではテーブルを囲んで助言を頂いたりして、2月の最終発表会に向けて研究意欲を高めました。

理系に進む高校生にとって、将来大切になるサイエンス・アウトリーチのやりがいや楽しさを体験できるよい機会となりました。

- 午前の部.....
  - 【新企画】~クリスマスの季節に、子ども達へサイエンスの贈り物~「松江北高校キッズ☆サイエンスプログラム クリスマススペシャル」
  - ①サイエンス・ステーションの皆さんによる「クリスマスサイエンスショー」
  - ②本校1・2年生による科学教室「望遠鏡ってすごい!!」
- 午後の部.....
  - ①サイエンス・ステーションの講師による「サイエンストーク(講演)」  
「ジェイムズウェッブは見た!!」  
田中 匠(東京大学 理学部 天文学科)  
「アートと地球科学 ~ 深海に眠る自然のかたち ~」  
丹羽 佑果(東京工業大学 理学院 地球惑星科学系)
  - ②本校2年理数科(7班)による「課題研究中間発表」
  - 数学班「辺上おにごっこ」
  - 物理1班「紙を重ねた時の摩擦力の変化」
  - 物理2班「円筒内で線香の煙の上昇が止まる現象についての研究」
  - 化学1班「ヨウ素時計反応と多変数関数」
  - 化学2班「シジミの殻に関する研究と考察」
  - 生物1班「セイタカアワダチソウの成長と抑制」  
「匂いと学習の相関」
  - 生物2班「ミナミヌマエビの体色変化」



## 1.2年学習成果発表会

12月20日(火)、昨年度に引き続き、1,2年生合同の「学習成果発表会」をくにびきメッセで行いました。2年生はそれぞれチームで協働して取り組んできた「課題研究」を発表しました。

普通科2年生は、「自分の未来・社会の未来をよりよくするプロジェクト」として、フィールドワークを含め、活動してきたことをポスターセッションという形で発表しました。

理数科2年生は、理科や数学の分野のテーマで研究していることをパワーポイントを用いて中間発表しました。

また、1,2学期に行った各種研修旅行について代表生徒が発表しました。新しいことを体験したり、専門機関の施設を見学したり、卒業生と交流したりして、普段の学習や大学進学への意欲を高めることができたことと振り返りを語りました。

午後は、昨年度に引き続き、島根大学中村怜詞先生から「探究学習のススメ」というタイトルで、2年生の課題研究

の講評および、課題研究の意義についてお話をいただきました。普段の教科の学習と探究学習の関連や、大学入試や社会で求められる力との関連について、実際の入試問題を提示いただきながら説明いただき、今後の学習の仕方や自分の生き方や在り方を考えるよいヒントをいただく時間となりました。中村先生、どうもありがとうございました。





# 担任から卒業生へ贈る言葉

## Plus Ultra!

1 R担任 野田 侑佑

3年生とは2年間、担任そして世界史の教科担当としてかかわってきました。コロナ禍直撃の高校生活の中で行事がなくなったり制約されたりと、大変な状況の中でも頑張っている姿を見て高校教員になってよかったなとしみじみ思いました。ありがとう。

さて、世界は目まぐるしく変化し、困難の中にありながらもそれを克服しながら成長しています。その背景には、世界が歩んできた歴史が大いに影響していることを、世界史を通じて学ぶことができたでしょうか？ 紛争や疫病、戦争、今まさに起こっている困難なできごとは歴史なしには語れません。“賢者は歴史に学ぶ”とはドイツ帝国の名宰相ビスマルクが述べた言葉です。僕はこの言葉が大好きです。世界史を教える上でこれを指導の指針として大切にしています。最後になりますが、タイトルにある言葉は「さらに前進！」という意味です。アニメ「ヒーローアカデミア」でも使われて有名になりましたが、もともとは神聖ローマ皇帝カール5世のモットーとして使われた言葉です。ぜひ今後も歴史に学びながら、さらに前進してください。



## 答えは自分の中に

2 R担任 林 裕介

卒業おめでとうございます。コロナ禍による突然の休校から始まった3年間でしたね。あれからあつという間に卒業を迎えます。北高での生活はどうでしたか？ あの頃想像していた理想の自分に近づけていますか？

“今僕のいる場所が、望んだものと違って、悪くはない、きっと答えは一つじゃない”

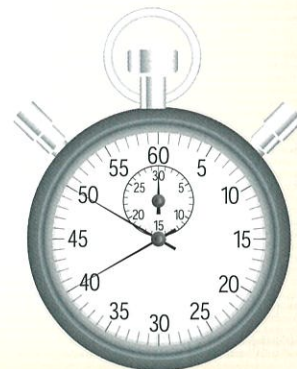
ある歌詞の一節です。私自身の人生を振り返ってみると「望んだものと違って」いることが多かったです。しかし、どの場面でも試行錯誤していると、助けてくれる人が現れ、それまで私の中に無かった新しい発見がありました。案外なんとかなるものです。何か自分の思考と違うとき、それまでの取り組みは無駄ではなく間違ってもなく、ただ目標に最短距離で向かっていないだけです。みなさんのこれからは希望で光り輝いています。上手くいかないことがあっても大丈夫。それを解決するためのヒントは今までの・これからのみなさんの中に必ずあります。みなさんがこれから様々な困難に挑戦し、乗り越え、何者に成長してくのかを楽しみにしています。



## 人生のタイムレースの始まりです

3 R担任 新宮 由巳

3年生のみなさん、卒業おめでとう。入学後すぐに一斉休校となりどんな3年間になるかと思いましたが、未だにコロナの渦の中にいます。コロナ以前を知っているものからすれば気の毒な気がするのですが、それを知らないみなさんはこれが日常として楽しめた3年間だったのでしょうか？ 正直な感想を聞いてみたいと思っています。あつという間の3年間のタイムレースでしたね。能力の違う他人と比較するのではなく、そのときそのときの自分と比較して、何かを感じることができたでしょうか？ 成長したかどうかは問題ではありません。自分の行動を振り返り何かを感じて、未来に向かって行動を起こす意思を持つことが大切なことです。これから人生のタイムレースが始まります。制限時間は人それぞれ、正解は探してもありません。経験を積み、価値観を上げ、知識を深め、議論を行い、自分の途を選択・決断して行動を起こすことを繰り返します。コンディションを整えながら少しずつ進んでいきましょう。まだまだ先は長いですよ。気分良く、楽しく過ごせた3年間でした。ありがとう！



## すべてのことはいつもあなた次第

4 R担任 持田 綾子

卒業、おめでとう。

高校生活の日々は長かったでしょうか、それとも短かったでしょうか。

あなたはコロナ禍中で高校生活がスタートした最初の学年でした。入学早々学校は一斉休校に入り、また、部活動はたびたび禁止になったり制限がかかったりするなど、部活動以外でもさまざまな活動が制限される中での高校生活でしたね。そして、あなたが卒業を迎えたこの春、コロナ禍以前の日常が取り戻されつつあります。次のステップではやりたいことに思う存分取り組めるよう祈ります。

さて、この先の長い人生において思うようにいかないことが多々あるかと思いますが、否、思うようにいかないことの方が多いのが実際かもしれません。しかし、思っていなかったことが幸いすることも多々あります。あなたに起こるあらゆる出来事に意味づけをするのはあなた自身です。思うようにいかないと嘆くよりも、そこに新しい意味づけをして前向きに捉えてみてください。令和4年度卒業生の前途に幸あれ。

## 音単100個覚えなさい

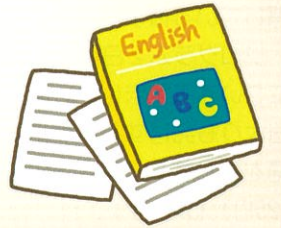
5 R担任 細田 大輔

この3年間で何十回かこの課題に取り組むように求められてきたと思います。英語が苦手だった人は大変だったかもしれません。これができないとどうなるのでしょうか？ 当然、定期試験で良い点数を取ることができない、といった目先のマイナスがあったと思います。

ただ、本当はこのような目先のことだけではありません。これからの人生で大なり小なり何かしら試練に出会うことがあります。そのたびに、それを乗り越えるために自分でどうすれば解決できるのか、知恵を絞って自分なりの解決策を出していかないといけません。時には周りの助けを借りても構いません。そうやって、少しでもできないことを減らしていくことが大切です。このことは今後進学してからも、就職をしてからも大事なことです。

卒業おめでとう。これからもスモールステップを積み上げて夢や希望を叶えていってください。

You cannot change your destination overnight, but you can change your direction overnight.



## 笑って行こう

6 R担任 渡邊 渉

教室棟が夜に包まれた頃、6 R教室の明かりをひとつ灯す。主役たちが残した熱を感じながら、ひとり、日課を始める。誰も自分の人生を、一度きりしか生きられないけれど、ここにいると、机の数だけの未来に寄り添うことができる。

「変わってく物 変わらない物 もがきながらも 自分らしさを」

あと幾何もすれば、1秒たりとも遅れることなく、日が昇る。何も求めず、当たり前のように、すべてを照らすそのために。私は…この小さな世界で、どれだけ笑顔で過ごせたろうか。ただひたむきに、1cmたりともずれることなく、机を揃える。

「いつかの痛みは誰かの為 そう思えたら 何故か少し笑えた」

心に流れる音楽が終わり、壁のスイッチに手を伸ばす。最後にもう一度、振り返り、目を細め、そして…願う。やがて旅立つ主役たちが、いつか振り返るそのときに、当たり前のように、笑顔で待っていられますように。

「笑って行こう 笑って行こう あなたが誰かにそうされたように」  
(GReeeeN「花唄」)

## “Where there's a will, there's a way”

7 R担任 安田 仁美

3年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。思い返せば、入学式直後の休校から始まり、様々な制限や度重なる行事の中止を受けて、我慢の中の高校生活だったと思います。だからこそ友達と話したこと、授業で先生がした無駄話、音単で習った英単語の意味、「毎日の何気ないことが思い出」と言えるような濃密な3年間を一緒に過ごせたことを嬉しく思います。タイトルにした英文は、私が大事な場面でもみなさんに伝えたいと思う言葉です。高校を卒業することがゴールではありません。この先、もっと感動することや楽しいこと、困難なことや心が折れそうになることがあります。どんなときも自分で道を切り拓いていってください。

「ああ 答えがある問いばかりを 教わってきたよ だけど明日からは 僕だけの正解をいざ 探しにゆくん だ また逢う日まで (中略) 制限時間は あなたのこれからの人生 解答用紙は あなたのこれからの人生 答え合わせの 時に私はもういない だから 採点基準は あなたのこれからの人生」  
(『正解』RADWIMPSより) Let's Begin!